

JR 四国 2700 系特急形気動車



写真 1 外観

要旨

四国旅客鉄道(JR 四国)の特急列車は、岡山・高松と松山、高知(宿毛)、徳島間とを中心に運転している。山間部を走行するため、曲線の多い四国において、特急列車の大幅な所要時間の短縮を目的に、車体を傾斜させて超過遠心加速度を低減することで、曲線通過速度の向上を行っている。

非電化区間の予讃線(松山～宇和島間)・土讃線・高德線においては、2000 系特急形気動車で、電化区間の予讃線(岡山・高松～松山間)においては 8000 系特急形直流電車で運行しており、どちらも制御付き自然振子方式を用いて車体傾斜を行っている。台車構造の簡素化、メンテナンスコストの低減などを目的として、空気ばね式車体傾斜方式の 8600 系特急形直流電車を 2013 年度に、2600 系特急形気動車を 2016 年度に導入した。今回、2000 系の置換えを図るため、2000 系・8000 系と同様の制御付き自然振子システムを用いた 2700 系特急形気動車を製作した。